

わくわく田底っ子

第36号

文責：校長 益永 一幸

人権集会 ～各学年学級からの1年間の学び発表～



1年生 「わたしのまほうの手」

「障がいをもっていてもいなくても、あきらめずに挑戦すると誰でもできるようになる」という強いメッセージを出してくれた1年生でした。全校児童の前で、一番目の発表でしたが、みんなで協力して堂々と発表できました。このこと自体が、あきらめずに挑戦した発表でした。素晴らしかったです。



2年生 「あそぼうよ」

子どもたちの中には、自分から話しかけられずに一人になってしまう子がいます。一人でいる子に気づき、友達のことを思いやり、声をかけ、みんなで仲良く遊べる仲間になりたいですね。発表では、役割演技をしながら、声をかける人のちょっと勇気がいる姿、声をかけられた人のうれしい姿が表現できていました。

3年生 「いのちをいただく」

私たちはいただく命によって自分の命があります。命あるものを大切にしようという心、私たちに命あるものを食材として提供する仕事に携わっている人たちへの感謝の心を忘れてはいけないと思いました。子どもたちは真剣にそれを伝えようと発表していました。



4年生 「障がいとは何だろう」

障がいのある人に「かわいそう」「手伝ってあげなくては」という偏見が少なからずあります。相手の立場に立って相手を理解し、声をかけることが大切だと学びました。車いすの動かし方の実演はとても参考になりました。障がいのある人やヘルプマークを持っている人を見かけたら「なんと声をかけますか？」



5年生 「水俣環境学習」

水俣病のことに学んできた5年生。事前学習をして、水俣病資料館や環境センターに行って、語り部さんから多くのことを学びました。水俣病についての正しいところを知ることの大切さを知るとともに、「健康を守る取組」「環境を考えた取組」「差別・偏見のない社会」を目指すことの大切さを発表していました。



裏面に「なかよし学級」「6年生」の紹介をしています。



「学級のしょうかい」

6年生2人が「ひまわり学級」の紹介をしました。「ひまわり学級って、どんなところ」という投げかけから始まりました。「自分のペースで学習できる」「学年を越えた教え合いができる」「少し苦手なことも少しずつ学習している」という良さを発表していました。「小中の合同見学旅行」も素敵な活動と思いました。



「6年間の人権の学び」

6年生はこれまでの6年間で学んできた人権学習を発表しました。「間違った考えをなくす」「決めつけはいけない」「うわさをうのみにしない」などの偏見や差別をなくし、正しいことを知ろうとすることの大切さを訴えていました。学級の合言葉「COLOR」のように違いを認め合う仲間づくりを中学校に行っても大切にしていきたいという決意を発表していました。

雷雨による「児童引き渡し」お世話になりました

2月21日（水）は、2月には珍しく朝から雷が伴う激しい雨となりました。児童の下校時刻も激しい雷雨が続いており、その後も状況に変わりがないという予報がでましたので、「児童の保護者引き渡し」という措置を取りました。保護者の方にはお仕事などもあって急な迎えは大変だったと思いますが、迅速に対応いただき、時間内に全ての児童を無事に保護者へ引き渡すことができました。大変ありがとうございました。今後も、このような救急な対応を取ることはあると思います。児童の安全のためにご協力お願いいたします。



植木北中学校区「きらめきプラン」配布について～小中一貫校の取組～

これまでお知らせしていましたが、田底小・吉松小・植木北中の3校は「小中一貫型小学校・中学校」として教育活動をスタートしています。3校の教職員が話し合いを重ね、子どもたちの発達段階に応じた目標をまとめた「きらめきプラン」を作成しました。29日の学級懇談会で配布しますので、家庭内で目の留まる場所に掲示をお願いします。